

分野別の現況と課題について

都市構造・人口構成	2
土地利用	4
市街地整備	6
都市施設	8
交通	10
都市防災	12
循環型社会	14
景観	15
市民協働	16
地域資源	17
社会動向と今後求められるまちづくりの方向性	19

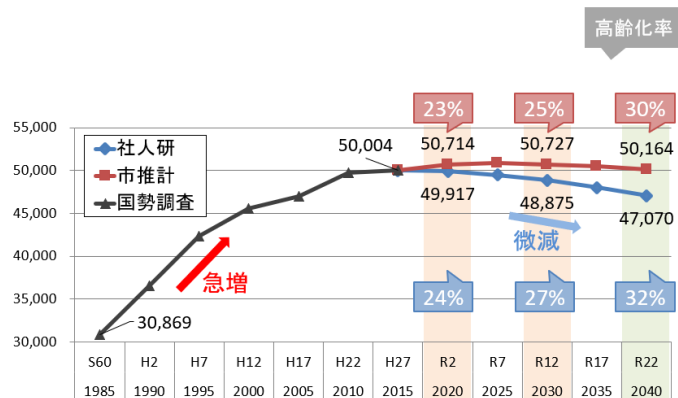
都市構造・人口構成

1. 現況

- 現在まで人口は増加傾向にあるが、近い将来減少局面に転じる見込み
- 住機能型の都市だが、今後はリタイヤ世代が増加し、市内で過ごす時間が増える見込み

■人口推計

人口は近い将来減少局面に転じる見込み

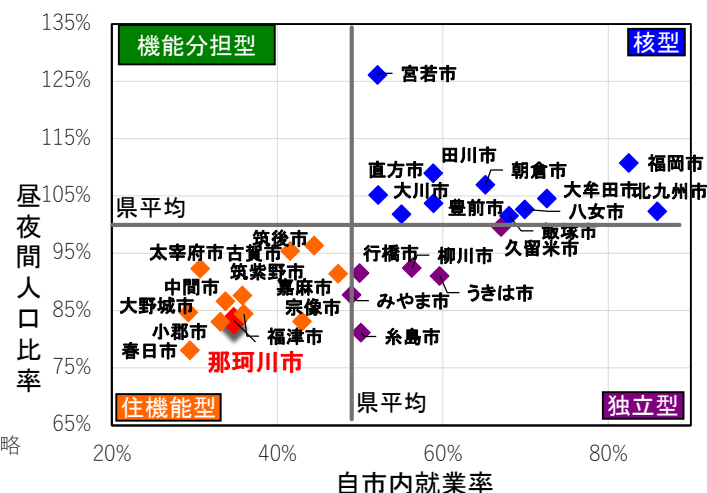


※社人研：『日本の地域別将来推計人口』（平成 30（2018）年推計）

※市推計：那珂川町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（H28.3） p.13 ⑤町シミュレーション 1

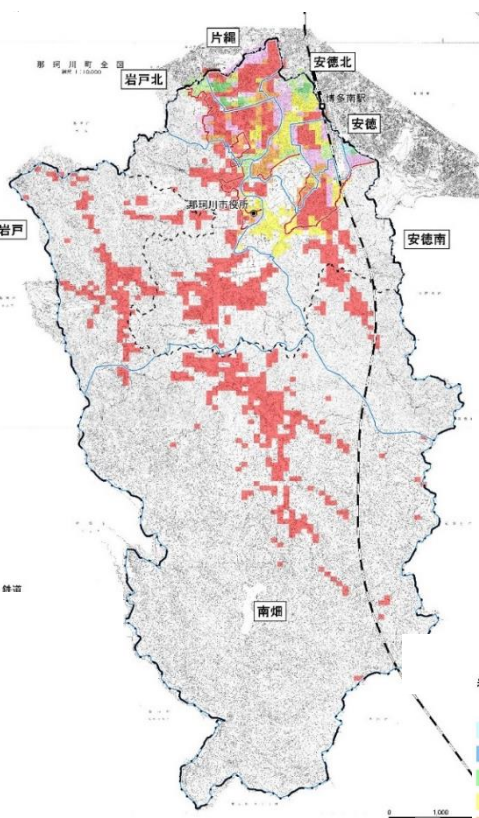
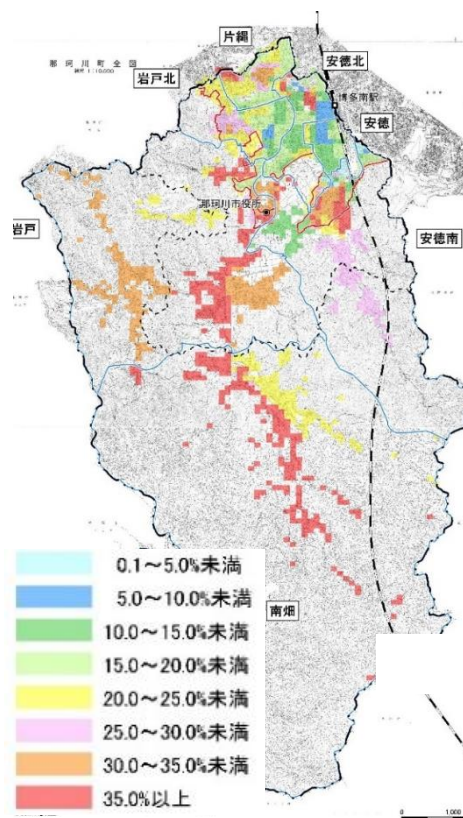
■県内主要都市の自市内通勤・通学率、昼夜間人口比率

住機能型の都市



■高齢化率の変化（左：2015 年、右 2040 年）

2040 年には、市街化調整区域・都市計画区域外のほか、市街化区域を含む市全域で高齢化が進展する見込み

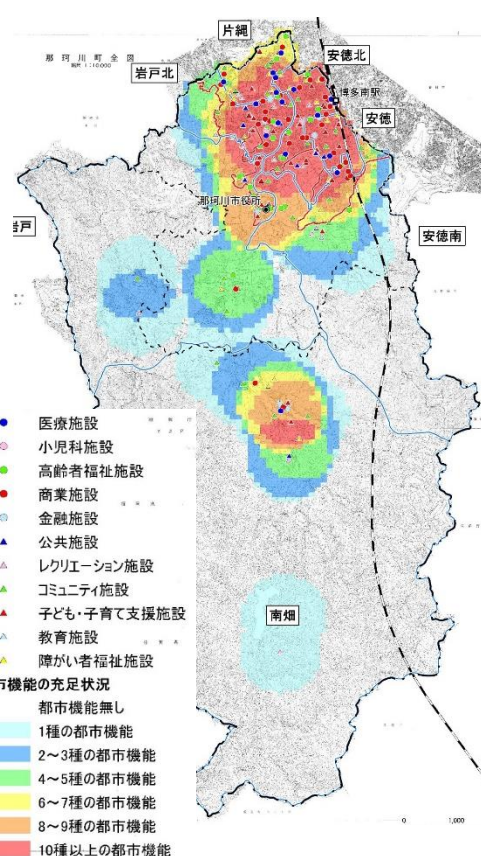


資料：国勢調査（2015）

国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2（H27 国調対応版）」を編集・加工（2040）

■都市機能の分布状況（徒歩圏 800m 内の施設種類数）

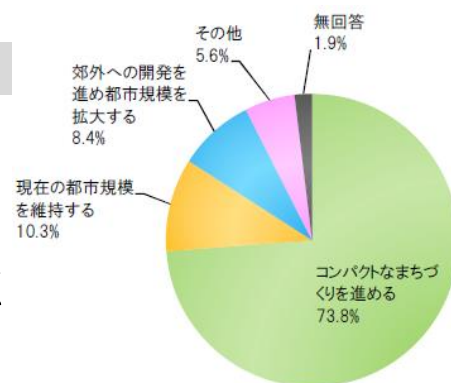
市街地北部に各施設が多く立地し充足している



2. 住民意向

■まちづくりの方向性

市民の 3/4 が「コンパクトなまちづくりを進める」べき



Q.那珂川市が持続的な発展を遂げるためには、今後どのようなまちづくりを行うべきか
(N=951)

3. 上位・関連計画

福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

●圏域内の市町村は、広域的連携を図りつつ、「集約型都市づくり」に寄与する都市計画を定める必要

総合計画
(来年度改定予定)

●将来像：自然と人がとけあう活力あふれるまちなかがわ～ずうっと住みたい」まちを目指して～

施策大綱	基本施策	施策の概要
施策大綱1 自然との共生を図るまちづくり	1. 自然環境を保全し活用する 2. 環境を守る基盤と体制を整備する 3. 地域資源を活かした産業を創出・育成する	(1)森林環境の保全 (2)農地の保全 (3)河川環境と生物多様性の保全 (1)廃棄物の減量とリサイクル対策の推進 (2)環境の保全と公害対策 (1)農業の活性化 (2)林業の活性化 (3)商工業の活性化 (4)観光の推進
施策大綱2 人権を尊重し、学び、輝くまちづくり	1. 人権・同和教育と啓発を推進する 2. 男女共同参画を推進する 3. 豊かなこころを育む	(1)地域や学校における人権・同和教育と啓発の推進 (2)実態的差別の解消 (3)人権侵害への支援 (1)男女共同参画意識の向上 (2)女性参画の推進 (3)性による人権侵害への支援 (1)学校教育の推進 (2)社会教育の推進 (3)スポーツの推進 (4)文化・芸術活動の充実
施策大綱3 人と人とのつながり、コミュニティを大切にするまちづくり	1. 協働のまちづくりを推進する 2. 地域に根ざした特色あるコミュニティを形成する 3. 安全な生活を確保するための体制をつくる 4. 安全に暮らすための基盤を整備する	(1)住民参画の推進 (2)まちづくりの一員として地域活動に参画する職員づくり (1)地域コミュニティの活性化 (2)町立公民館活動の充実 (1)消防体制の充実 (2)防災体制の充実・強化 (3)防犯・交通安全対策の充実 (4)消費者保護の推進 (1)災害に対する基盤整備
施策大綱4 活き活き暮らせる健やかなまちづくり	1. 住民の健やかな暮らしを支援する 2. 子育て家庭を支える仕組みを充実する 3. 高齢者が安心して暮らせる環境を整備する 4. 障がい者が安心して暮らせる環境を整備する 5. 幸せな暮らしを支える仕組みを充実する	(1)健康づくりの推進 (2)地域福祉の充実 (1)子育て家庭への支援 (2)保育サービスの充実 (3)児童虐待の防止 (1)健康づくり・介護予防の推進 (2)生きがいづくり・社会参加の推進 (3)安心の体制づくり (1)適正な福祉サービスの提供 (2)社会参加の促進 (3)生活環境の充実 (1)国民健康保険制度の円滑な運営 (2)介護保険制度の円滑な運営 (3)後期高齢者医療制度の円滑な運営 (4)国民年金制度の円滑な運営 (5)医療体制の充実 (6)生活保障の充実
施策大綱5 生活基盤の豊かさを実感できるまちづくり	1. 安心して快適な生活基盤を整備する 2. 快適に暮らすための生活環境を整備する 3. 効率的な行政の運営と安定的な財源を確保する 4. 誰もがわかりやすい行政運営を図る	(1)道路等の整備 (2)公共交通網の整備 (3)市街地のにぎわいの創出 (1)清潔な生活環境の形成 (2)憩いとやすらぎの場の確保 (3)快適な住環境の創出 (1)行政改革と効率的な行政運営の推進 (2)健全な財政基盤の確立 (3)情報ネットワークの適正な活用 (1)広報活動の推進と広聴活動の充実 (2)窓口サービスの充実 (3)行政運営の合理性・納得性の向上

4. 那珂川市が抱える課題

拠点の強化・連携

●コンパクトな市街地が形成されているが、都市機能が分散しており、将来の高齢化を見据えた各拠点の役割分担や機能強化、連携が必要

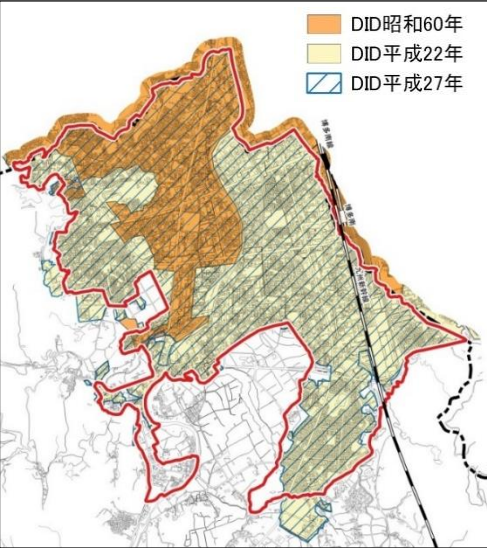
土地利用

1. 現況

- 市街化区域はほぼ全域が DID であり、高密度な市街地が形成されているが、博多南駅周辺も含めて空き地が点在
- 市街化調整区域及び都市計画区域外は農地や山林が広がっているが、既存の集落も存在する
- 隣接する春日市や大野城市と比較して小売吸引力が低く、買い物客は外部に流出

■人口集中地区の区域

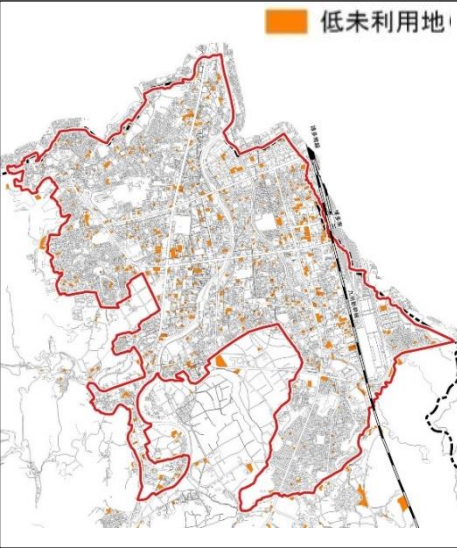
市街化区域はほぼ全域が DID



資料：国土数値情報（人口集中地区）

■低未利用地の発生状況（H29）

駅周辺も含めて空き地が点在



資料：平成 29 年都市計画基礎調査
※未利用地、平面駐車場（事務所・マンション等含む）を低未利用地とする。

■市街化区域内人口密度の比較

周辺都市と比較して高い

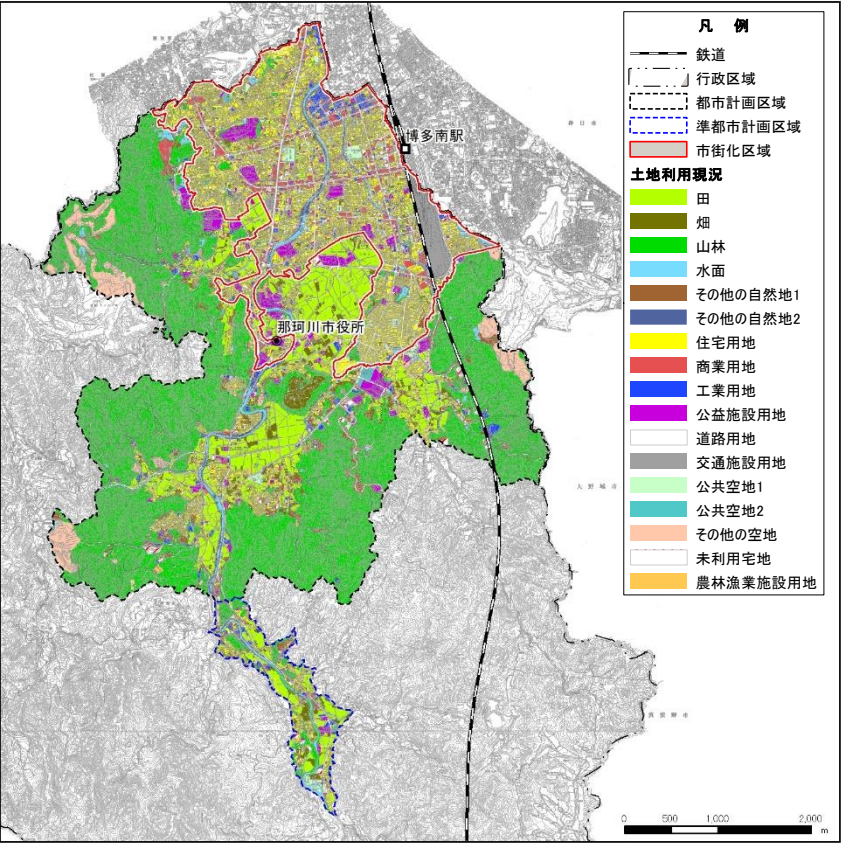
	面積 (ha)	人口 (千人)	人口密度 (人/ha)
筑紫野市	1,418	89.7	63
春日市	1,333	111.0	83
大野城市	1,405	95.0	68
太宰府市	1,182	69.5	59
那珂川市	566	43.4	77

	① 市全体の 面積 (ha)	② 市街化区 域の面積 (ha)	②÷① (%)
筑紫野市	8,773	1,418	16.2%
春日市	1,415	1,333	94.2%
大野城市	2,689	1,405	52.2%
太宰府市	2,960	1,182	39.9%
那珂川市	7,495	566	7.6%

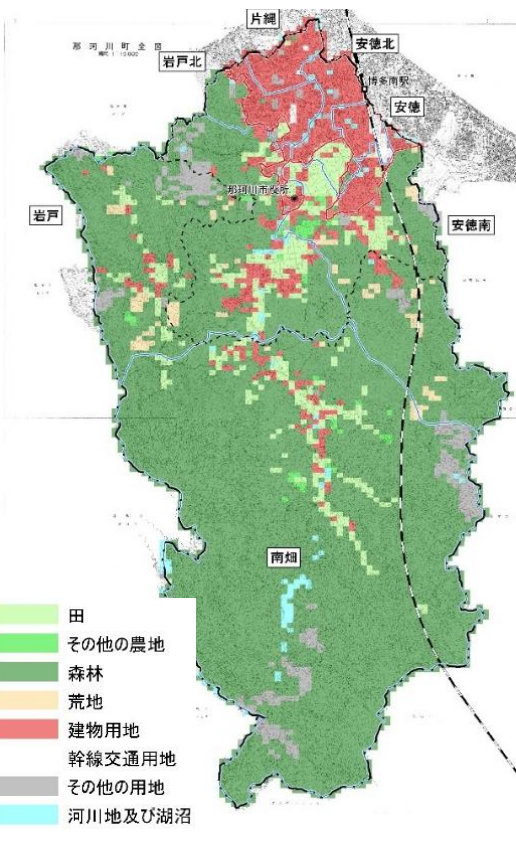
資料：平成 29 年都市計画現況調査

■土地利用状況

市街化調整区域及び都市計画区域外には農地や山林が広がっているが、集落も存在する



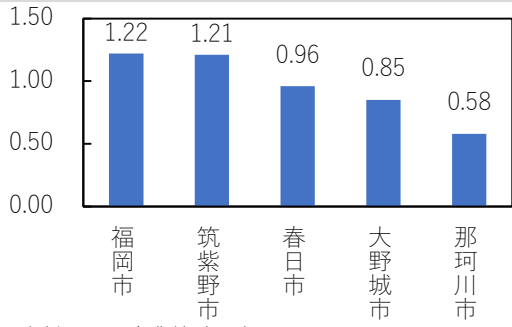
資料：平成 29 年都市計画基礎調査



資料：国土数値情報（土地利用細分メッシュ）

■周辺都市における小売吸引力の比較

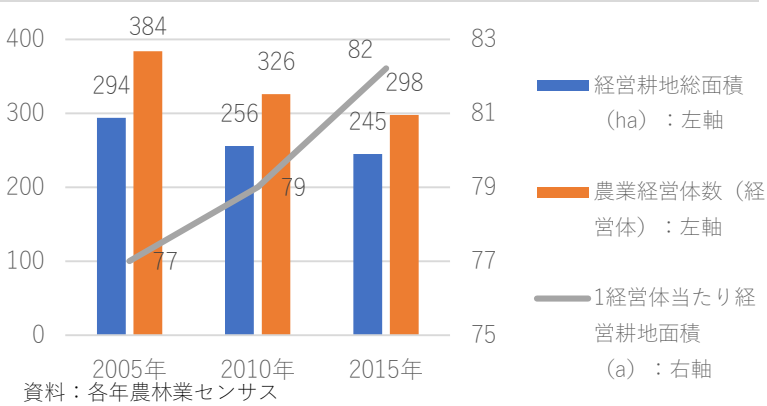
春日市や大野城市と比較して小売吸引力が低く、買い物客は外部に流出



資料：H26 商業統計調査

■耕地面積等の推移

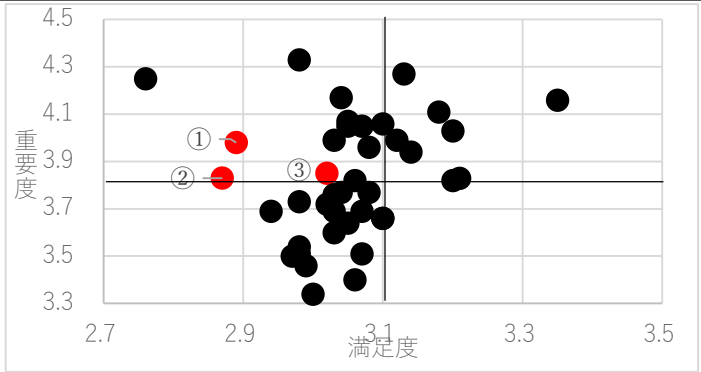
経営耕地面積や農業経営体数は減少傾向



資料：各年農林業センサス

2. 住民意向

①商工業の活性化、②市街地の賑わい創出、③農業の活性化は満足度が低く、重要度が高い。



資料：令和元年度市民意識調査

3. 上位・関連計画

農業振興地域整備計画	●認定農業者や集落営農組織等の担い手への農地の利用集積の推進及び耕作放棄地の発生抑制・解消の取り組みにより、農地の保全に努める
地域防災計画	●土砂災害危険性のある地域について、本町の諸計画との整合を図りながら、安全性が確保されるよう土地利用を適切に誘導する

4. 那珂川市が抱える課題

市街地の低密度化の予防

- 駅周辺など利便性の高いエリアに点在する低未利用地の有効活用

都市機能立地の受け皿となる土地の確保

- 市街化区域内は人口密度が高く開発余地がほとんどないため、都市機能を集積させた拠点整備や大規模集客施設の立地については、市街化調整区域における計画的な新市街地の創出を検討

農地保全と市街地開発・集落維持の棲み分け

- 市街化区域に隣接する市街化調整区域内の農地について、土地利用方針を明確化
- 市街化調整区域内に存在する集落の維持と農地保全の棲み分け方針を明確化

都市計画区域外における自然環境の維持

- 市の大部分を占める森林など、豊かな自然の適切な維持管理
- 担い手の減少による農地・森林の荒廃を防ぐため、利活用の検討

災害に強いまちづくりの推進

- 防災・減災対策に加え、安全な地域への居住誘導が必要

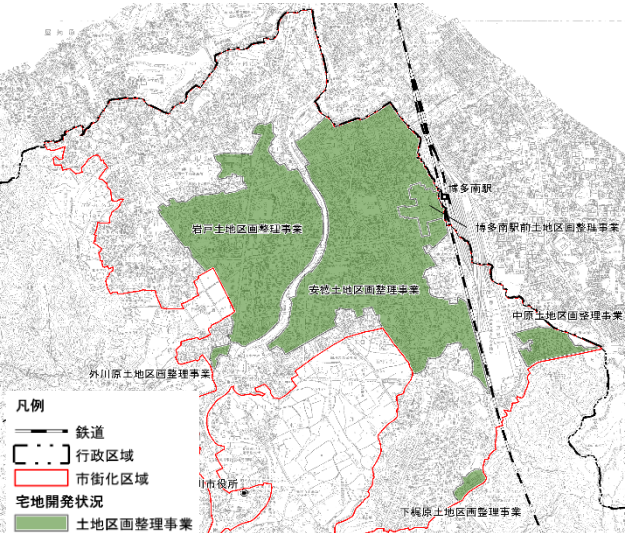
市街地整備

1. 現況

- 市街化区域の約 4 割が面整備済み
- 市街化区域周辺の市街化調整区域において新市街地の創出を検討中
- 建物の高層化はやや進行

■土地区画整理事業

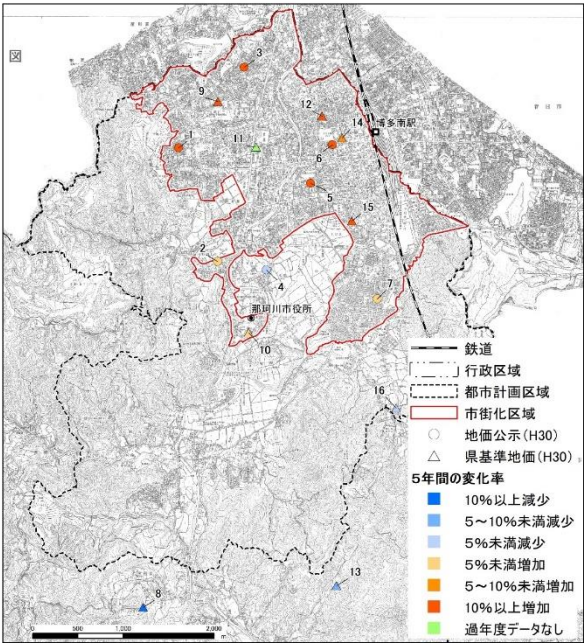
市街化区域の約 4 割が面整備済み



資料：都市計画基礎調査

■地価（平成 30 年）

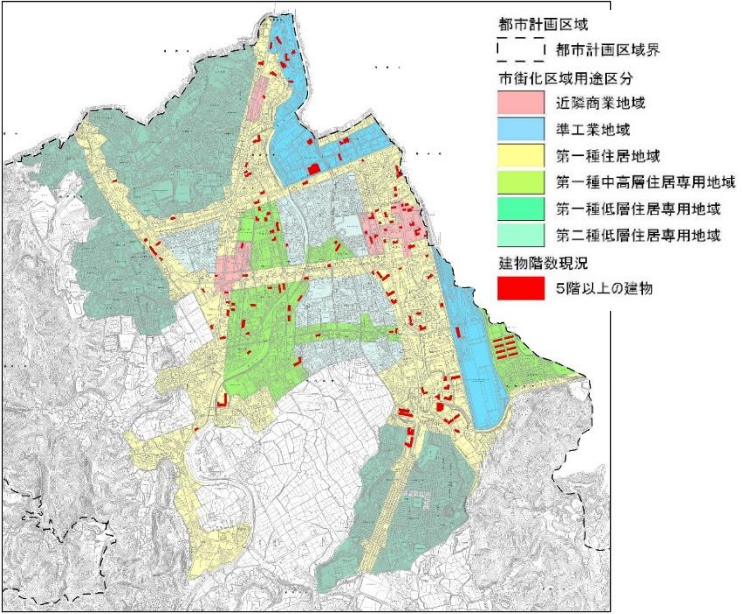
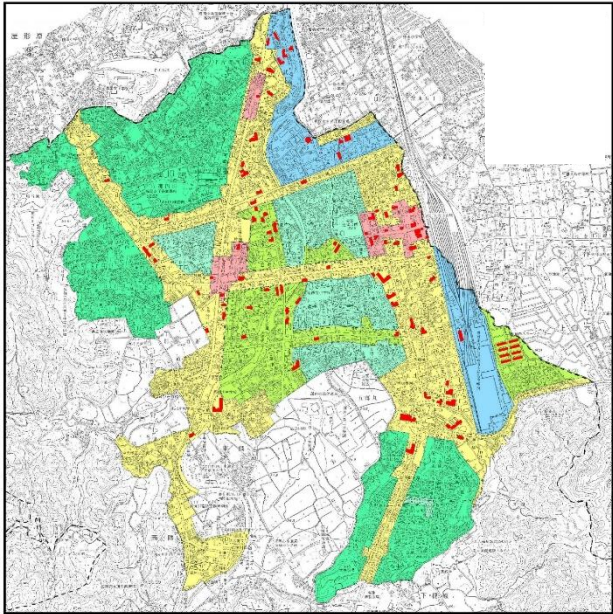
市街化区域内の地価は商業系・住居系ともに上昇傾向。市街化調整区域、都計外の地価は下落傾向。



資料：国土数値情報

■市街化区域内における 5 階建て以上の建物（左：前回、右：現在）

建物の高層化はやや進行



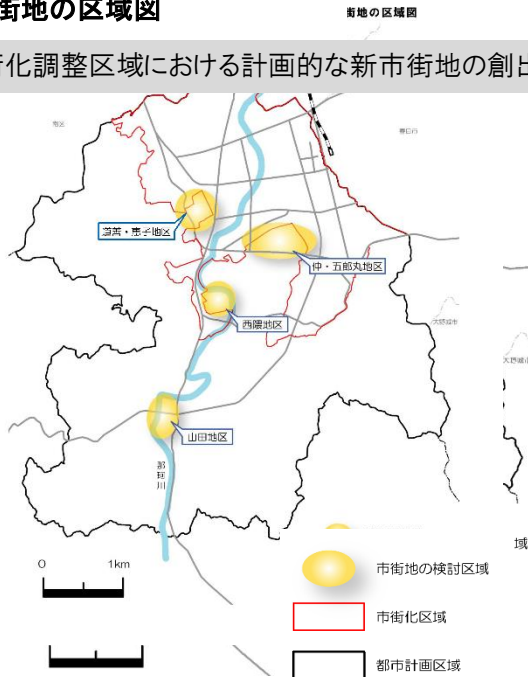
資料：（左）現行都市マス策定時の検討委員会資料、（右）平成 29 年都市計画基礎調査

市街地の区域図

市街化調整区域における計画的な新市街地の創出を検討

市街地の区域図

市街化調整区域における計画的な新市街地の創出を検討



- 仲・五郎丸地区
農業生産との調整に十分配慮したうえで、大規模集客施設や医療・福祉施設などの誘導、さらには広域的で多様な都市機能の集積や利便性の高い住環境の整備など、周辺との調和等を考慮しながら検討していくものとする。
- 道善・恵子地区
農業生産との調整に十分配慮したうえで、市街化区域への編入を視野に入れ、地区計画等の都市計画手法の活用、土地区画整理事業等の市街地開発事業による宅地造成、商業施設及び医療・福祉施設等の誘導や住宅整備を検討していく。あわせて、公共交通と連携した利便性の高い住環境の整備について検討していくものとする。
- 西園地区
行政・福祉拠点として、行政・福祉施設の立地や、住環境の整備について検討していくものとする。
- 山田地区
地域交流拠点として、医療・福祉・防災など公共性の高い施設や沿道利便施設の誘導、商業や観光などによる賑わいの創出のほか、南部の地域公共交通の拠点としての機能確保を検討していくものとする。

資料：現行の都市計画マスタープラン

2. 住民意向

市街地の魅力向上のために充実すべきこととして、約 7 割の市民が「様々な店舗がそろい買い物などを楽しめること」、約 6 割の市民が「働く場があること」や「まちなかでも水や緑を感じられること」が必要と回答

Q.那珂川市の市街地の魅力を高めるために、特に充実すべきこととして、よくあてはまるもの最大5つ（N=955）

選択肢	件数	割合
1. 雰囲気の良いカフェなどでゆったりと時間をすごせること	391	41%
2. 美術鑑賞や読書、映画・舞台鑑賞など文化活動が楽しめること	442	46%
3. 様々な店舗がそろい買い物などを楽しめること	651	68%
4. 多様なイベントに参加できること	172	18%
5. まちなかでも水や緑を感じられること	554	58%
6. 体を動かし健康づくりができること	406	43%
7. 人との交流を楽しめること	244	26%
8. 市の歴史や観光情報を得られること	133	14%
9. 働く場があること	557	58%
10. その他	76	8%
11. 特になし	24	3%
無回答	20	2%
計	3670	

3. 那珂川市が抱える課題

都市機能立地の受け皿となる土地の確保

- 市街化区域内は人口密度が高く開発余地がほとんどないため、都市機能を集積させた拠点整備や大規模集客施設の立地については、市街化調整区域における計画的な新市街地の創出を検討

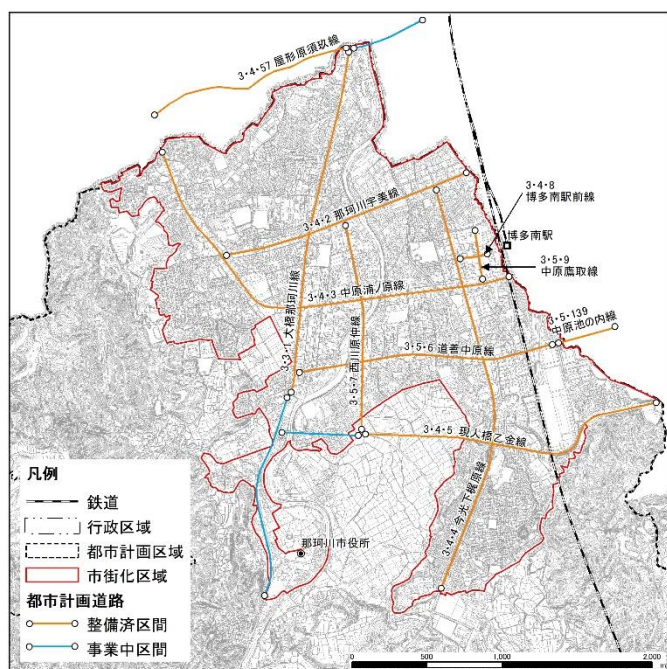
都市施設

1. 現況

道路	●都市計画道路は 11 路線が計画決定されており、88%が整備済み ●市中心部から近隣市へつながる道路(山田中原福岡線、福岡早良大野城線、平等寺那珂川線)が慢性的に混雑している
公園・緑地	●市街地内の公園は多くが昭和 50 年～60 年代に整備されたもの
上下水道	●上水道:普及率 93.84%、下水道:普及率 98.59%(計画区域の 91.76%が整備済)
公共公益施設等	●リサイクルプラザ及び葬祭場が計画決定され、いずれも整備済み

■都市計画道路の整備状況

11 路線が計画決定、88%が整備済み



■ 混雑度

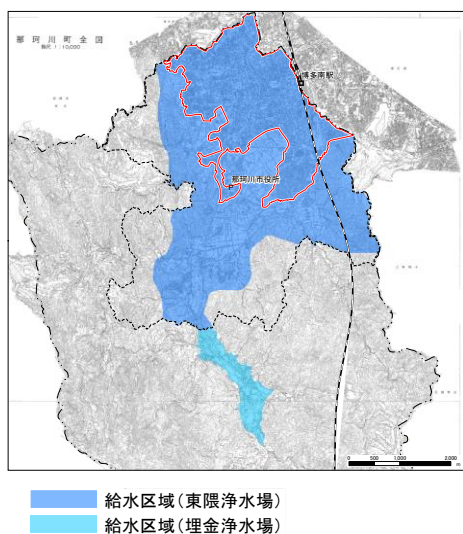
近隣市へつながる道路が慢性的に混雑



資料：H27 交通センサス

■上水道の整備状況図

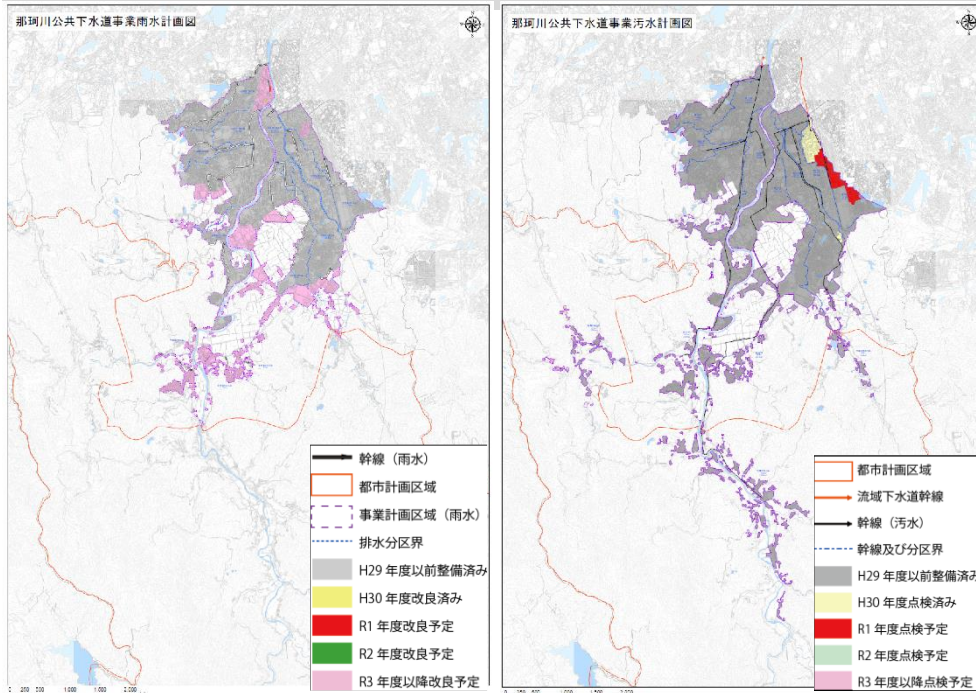
普及率 93.84%



資料：都市計画基礎調査

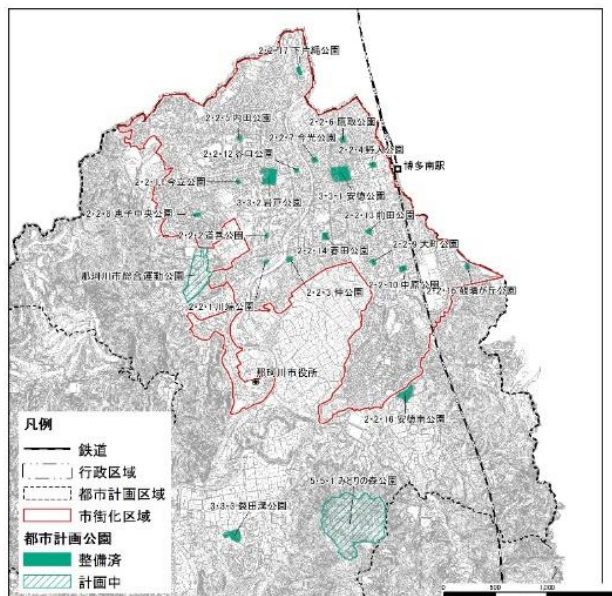
■下水道の整備状況図

普及率 98.59%(計画区域の 91.76%が整備済)



■都市計画公園の整備状況

多くが昭和 50 年～60 年代に整備されたもの



■公園面積の充足状況

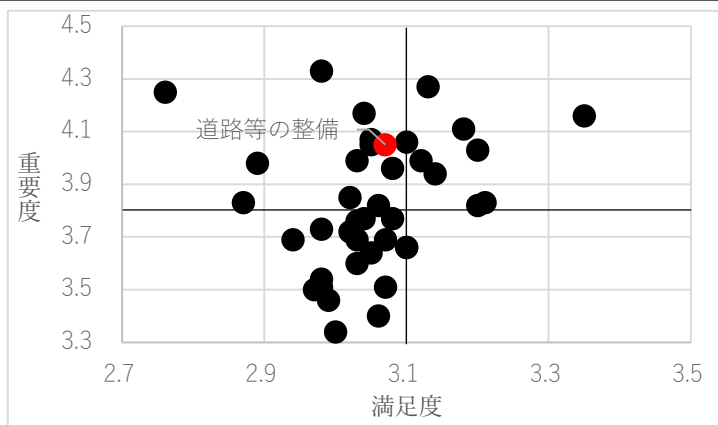
公園面積は国の基準から大きく不足している

	市民一人当たりの 公園の面積(㎡/人)
国基準	10.00
筑紫野市	10.44
春日市	7.97
大野城市	12.36
太宰府市	4.47
那珂川市	2.79

資料：H29 年度福岡県都市公園等整備現況調査

2. 住民意向

「道路等の整備」は満足度が低く、重要度が高い。



3. 上位・関連計画

公共施設等総合管理計画	●インフラ施設は現状の投資額を維持し、ライフサイクルコストを縮減
障がい者施策推進計画	●道路・公共施設のバリアフリー化とユニバーサルデザインによるまちづくり
次世代育成支援地域行動計画	●必要箇所に道路照明灯の設置など、安全な道路環境の整備

4. 那珂川市が抱える課題

適切な維持管理と質の向上

- 未整備の都市施設について、計画的な整備の推進
- 整備済みの都市施設について、道路における歩道の設置や拡幅、段差解消などの歩行空間のユニバーサルデザイン化、公園の機能充実など、ニーズにあわせた機能充実や適切な維持管理
- 老朽化した公共施設の適切な維持・更新
- 慢性的な混雑と道路ネットワークの改善のため、周辺都市との交流を支える道路の整備

効率的・効果的な整備の推進

- 道路の新設改良・維持更新をはじめ公共施設の整備について、限られた予算の中で優先度の整理が必要

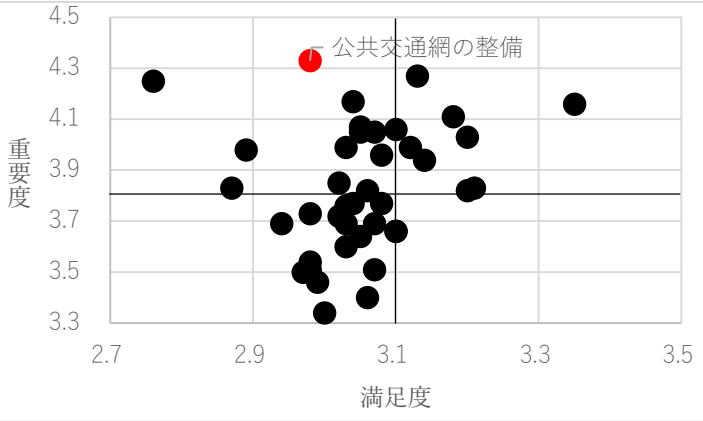
公共空間の利活用

- 官民連携した公共空間の活用により、適切な維持管理を行いつつ、都市の魅力を向上できる可能性

2. 住民意向

■満足度・重要度

「公共交通網の整備」は重要度が高いが、満足度は平均以下



資料：令和元年度市民意識調査

3. 上位・関連計画

地域公共交通網形成計画	●町北部への都市機能の集約と公共交通ニーズに対応した主幹線交通の運行 ●主幹線交通間の結節機能強化に向けた交通拠点整備 ●中南部地域バスハブステーションの検討
-------------	---

4. 那珂川市が抱える課題

増大する公共交通ニーズへの対応と公共交通網維持
●現状では、自家用車への依存が高いものの、公共交通網整備のニーズは高いため、公共交通の利便性向上が必要
●公共交通網を今後も維持するため、利用者数の増加が必要

■主な移動手段

日常の買い物や病院などを利用する際、6割以上が自家用車やバイクを利用

	食料品や飲料などの買い物		衣料品、家具・家電や趣味品など(買い回り品)の買い物		病院や診療所	
1. 徒歩	152	17%	12	1%	96	11%
2. 自転車	54	6%	22	2%	48	5%
3. 自家用車・バイク	626	71%	737	82%	571	64%
4. バス	12	1%	28	3%	39	4%
5. タクシー	1	0%	0	0%	3	0%
6. 博多南線	11	1%	47	5%	14	2%
7. その他	1	0%	5	1%	1	0%
無回答	22	3%	49	5%	122	14%
計	879	100%	900	100%	894	100%

資料：立地適正化計画策定のために実施したアンケート調査（H30）

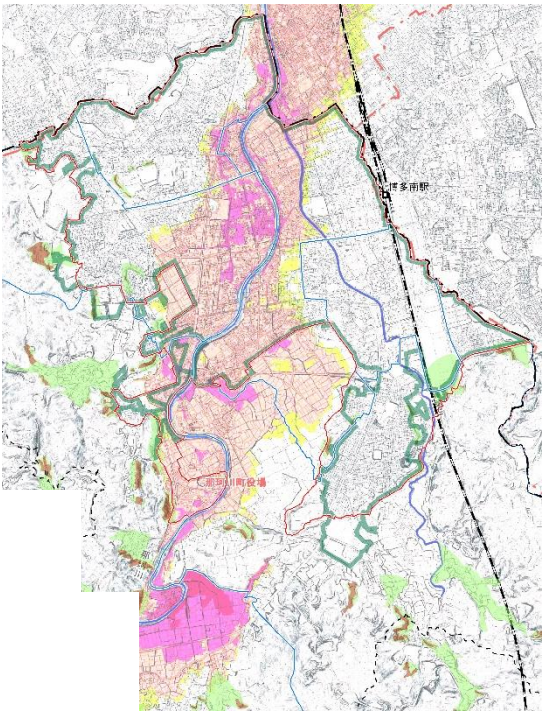
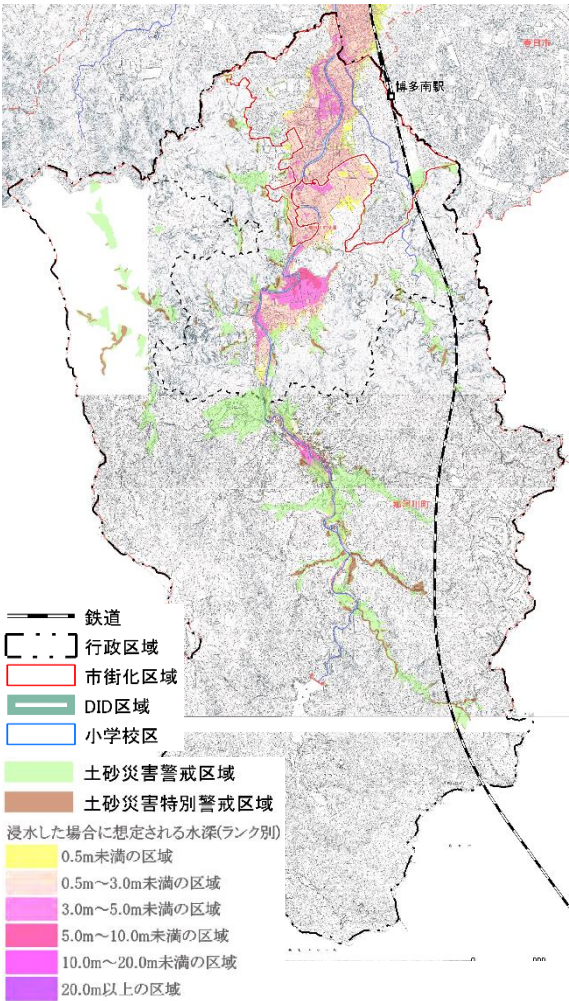
都市防災

1. 現況

- 那珂川の両岸部に浸水想定区域が指定
- がけ下・山すそ部に土砂災害の危険性あり
- 中国・九州北部豪雨(H21)では、市役所周辺や山田、今光等で外水被害が発生

■災害危険区域等

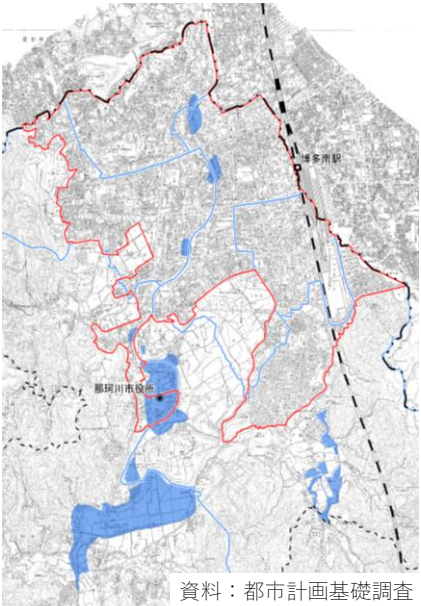
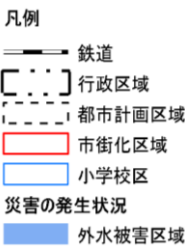
那珂川の両岸部に浸水想定区域が指定。がけ下・山すそ部に土砂災害の危険性あり



資料：国土数値情報（土砂災害警戒区域）
那珂川水系那珂川 洪水浸水想定区域図（H30.4.27 公表）

■災害の発生状況（H21.7 中国・九州北部豪雨）

市役所周辺や山田、今光等で外水被害が発生



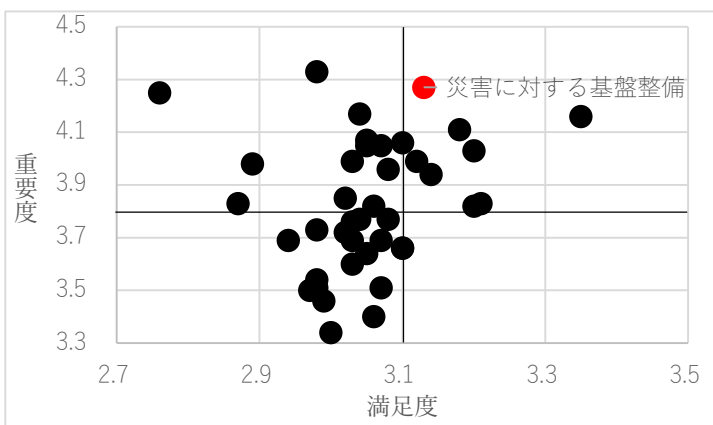
資料：都市計画基礎調査

2. 住民意向

■満足度・重要度

「災害に対する基盤整備」は重要度が高い

資料：令和元年度市民意識調査



3. 上位・関連計画

地域防災計画	● 災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、災害時の被害を最小化し、被害の迅速な回復を図る「減災」の考え方を防災の基本理念とする ● 土砂災害危険性のある地域について、本市の諸計画との整合を図りながら、安全性が確保されるよう土地利用を適切に誘導する
--------	---

4. 那珂川市が抱える課題

災害危険性のある地域における居住	● 激甚化する豪雨災害等への対策を強化しつつ、森林資源や那珂川など、豊かな自然との共生が必要
------------------	--

循環型社会

1. 現況

- 小中学校に太陽光発電設備設置済み
- 日常生活はマイカーに依存

■主な移動手段（再掲）

日常の買い物や病院などを利用する際、6割以上が自家用車やバイクを利用

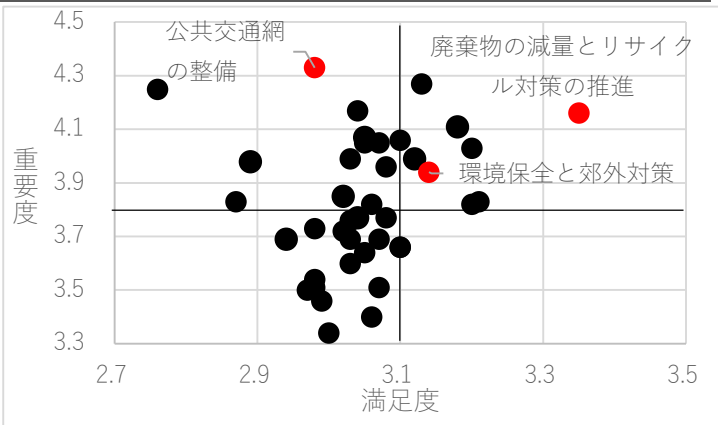
	食料品や飲料などの 買い物		衣料品、家具・家電 や趣味品など(買い 回り品)の買い物		病院や診療所	
1. 徒歩	152	17%	12	1%	96	11%
2. 自転車	54	6%	22	2%	48	5%
3. 自家用車・バイク	626	71%	737	82%	571	64%
4. バス	12	1%	28	3%	39	4%
5. タクシー	1	0%	0	0%	3	0%
6. 博多南線	11	1%	47	5%	14	2%
7. その他	1	0%	5	1%	1	0%
無回答	22	3%	49	5%	122	14%
計	879	100%	900	100%	894	100%

2. 住民意向

■満足度・重要度

「廃棄物の減量とリサイクル対策の推進」「環境保全と公害対策」は重要度が高い。

「公共交通網の整備」は重要度が高いが満足度が低い



資料：令和元年度市民意識調査

3. 上位・関連計画

環境基本計画	●省エネルギーの推進 ●再生可能エネルギーの導入 ●健全な資源循環の推進と廃棄物の適正処理
--------	---

4. 那珂川市が抱える課題

- 市民との協力による環境負荷軽減
- 公共交通の利便性向上によるマイカー利用の抑制
 - 再生エネルギー等の活用

景観

1. 現況

- 市制施行により、市全域が屋外広告物許可地域
- 景観法の活用など、景観保全・活用に関する取り組みは特に行っていない
- 南畑地域では景観保全の取り組みを開始

2. 上位・関連計画

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 国史跡 安徳大塚古墳保存活用計画 | ●史跡の保存と併せた周辺環境の保全、史跡地景観のあり方に対する意識の醸成 |
|------------------|--------------------------------------|

3. 那珂川市が抱える課題

景観保全・形成

- 那珂川、安徳大塚古墳などの文化財など、那珂川市固有の景観の保全・活用
- 新市街地において、まちなみガイドラインなどの景観ルールづくりによる良好な景観形成に取り組む

市民協働

1. 現況

- 2019 年(令和元年)より、市民一人ひとりの、やりたい！やり方を考えたい！という思いを実現して、活力あるまちであり続けるための取り組み(まちの活力アップ事業)を開始
- 市内では多くの市民団体が活動

■市内で活動する団体（抜粋）

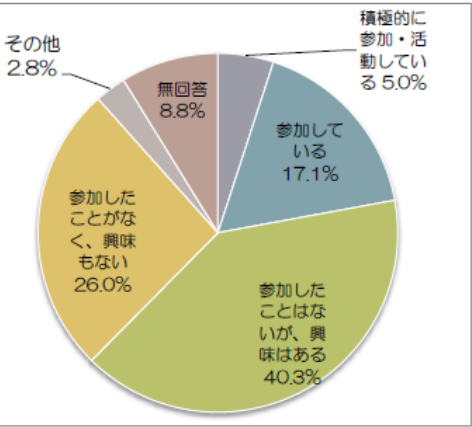
まちづくり	●那珂川町竹プロジェクト ●(NPO)『空き家革命』	●NPO) 絆・なかがわ ●博多南駅前を考える会
環境保全	●川を住民の手で美しくする会 ●なかがわの環境を考える会	●自然環境観察員 ●NPO)南畑ダム・五ヶ山ダム・那珂川水源流域ネット
歴史	●(NPO)夢・すすむプロジェクト ●那珂川町の歴史を学ぶ会	●歴史を学ぶ会 ●歴史ガイドボランティア ●郷土史研究会
その他	●高砂大学	

2. 住民意向

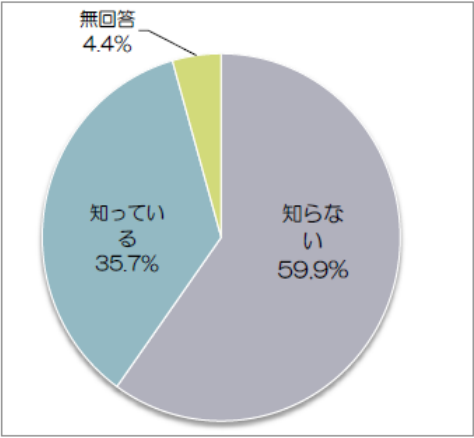
■市民協働の取り組み状況

地域のボランティア活動への関心は高いが、実際の制度の認知度は低い。

3. 地域のボランティア活動に関して、参加状況を教えてください



23. 市民がボランティア活動として道路の歩道や河川の美化と清掃を支援する那珂川市公共施設クリーンパートナー制度を知っていますか



3. 那珂川市が抱える課題

- 市民協働のまちづくり
- 市民のボランティア活動のニーズを実際の活動にうまく結びつける必要
 - 民間活力を利用した公共施設の維持管理や公共空間の活用へ取り組む必要

地域資源

1. 現況
- R1 吉野ヶ里町と観光振興を目的とした連携協定締結。両市町を周遊する観光ルートの整備やイベントの充実を目指す
[水やみどりの自然環境]

●九州新幹線からの眺望(山並みや市街地景観)

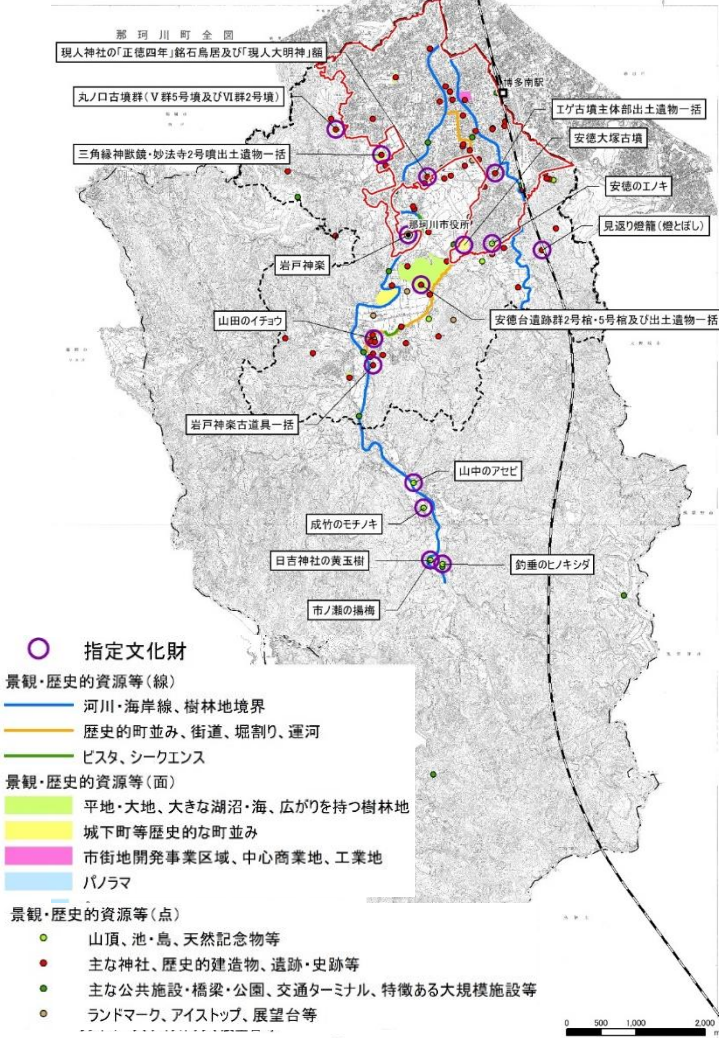
●山や川などの自然景観は、周辺都市にとっても貴重な資源

●H30 五ヶ山クロスオープン
[歴史・文化]

●H28 安徳大塚古墳が国史跡に指定され、歴史まちづくりの機運向上

文化財分布図

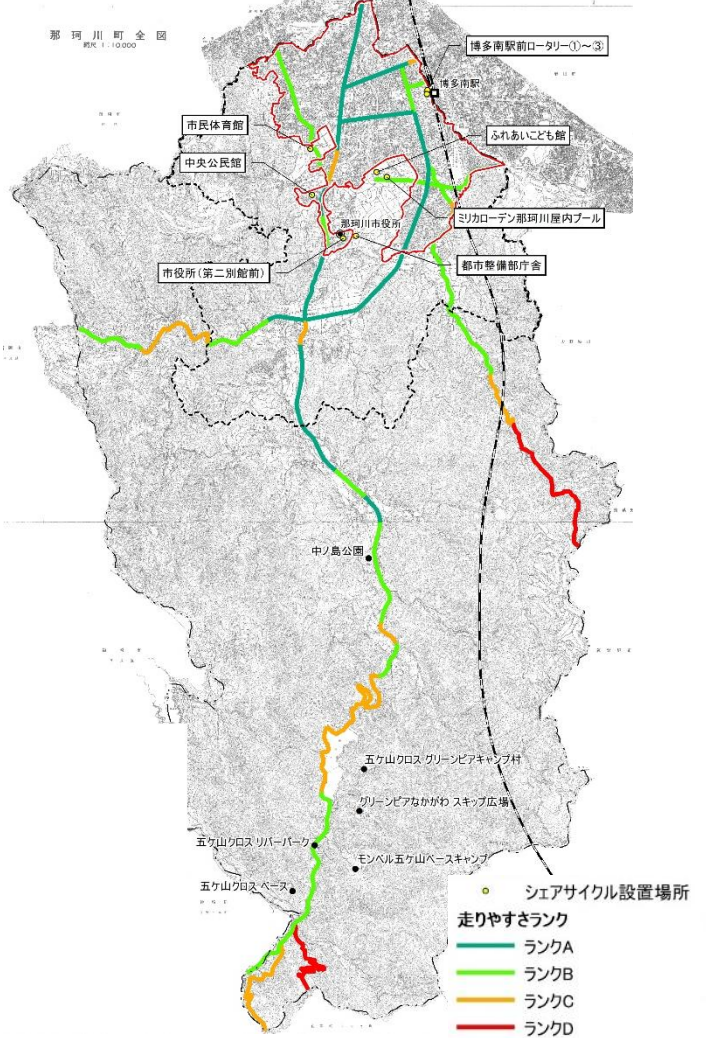
H28 安徳大塚古墳が国史跡に指定され、歴史まちづくりの機運向上



資料：都市計画基礎調査

道路の走りやすさとシェアサイクル設置場所

今年度よりシェアサイクルを設置



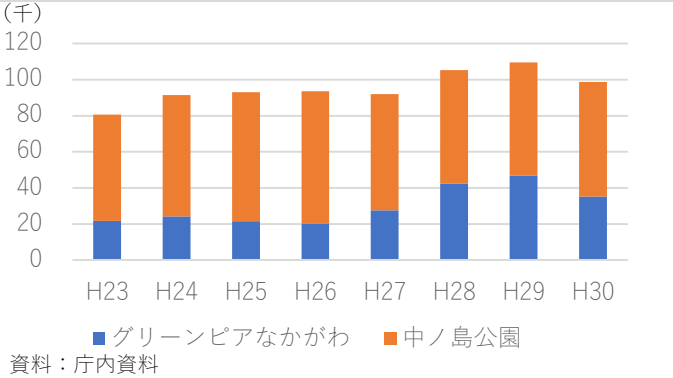
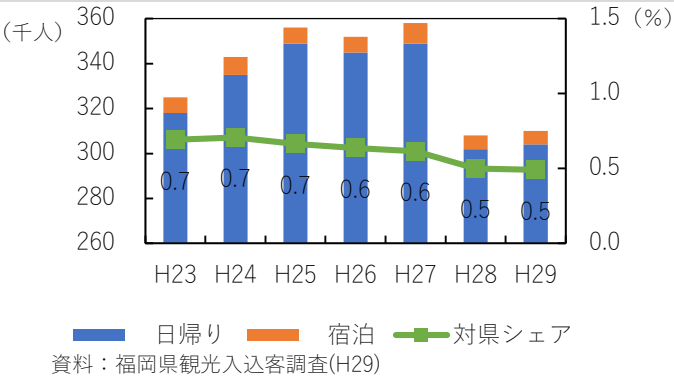
資料：道路の走りやすさマップ (H20 年 4 月版)

シェアサイクル設置場所				郊外部・山地部の道路における走りやすさイメージ	ランク	市街地部などの道路における走りやすさイメージ
No	設置場所	ラック数	自転車数	①2車線以上の道路で、カーブ・勾配が多少ある。 ②歩道もしくは広い路肩がある。	A	①2車線以上の道路で、カーブ・勾配が緩やか。 ②両側に自転車が行ける歩道があり、カーブが緩やか、路肩も広い。
1	博多南駅前ロータリー(3か所)	10台	5台			
2	ミリカローデン那珂川室内プール	4台	2台			
3	ふれあいこども館	3台	2台	①2車線以上の道路で、カーブ・勾配が多少ある。 ②路肩が狭いところがある。	B	①2車線以上の道路。 ②両側に歩道がある。
4	市役所(第2別館前)	6台	4台			
5	都市整備部庁舎	2台	1台	①1車線の道路で緩やかでないカーブがある。 2車線以上の道路で急カーブ・急勾配がある。 ②路肩が狭いところがある。	C	①2車線以上の道路。 ②片側歩道または歩道がない。
6	中央公民館	2台	1台			
7	市民体育館	2台	1台	①1車線の道路で、旧カーブが連続。 ②路肩が狭い。	D	①1車線の道路。 ②歩道がない。
計	9か所	29台	16台			

出典：なかなび

■観光入込客数の推移（左：市全体、右：施設別）

観光施設としてグリーンピアながわや中ノ島公園、五ヶ山クロスなどがあるが、市全体の入込客数は減少傾向



2. 住民意向

■市街地の魅力を高めるために充実すべきこと

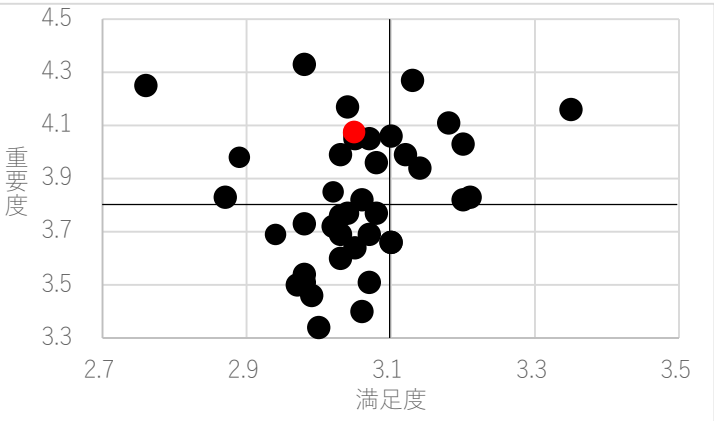
約 6 割の市民が魅力向上のために「まちなかでも水や緑を感じられること」が必要と回答

Q.那珂川市の市街地の魅力を高めるために、特に充実すべきこととして、よくあてはまるもの最大5つ（N=955）（再掲）

選択肢	件数	割合
1. 雰囲気の良いカフェなどでゆったりと時間をすごせること	391	41%
2. 美術鑑賞や読書、映画・舞台鑑賞など文化活動が楽しめること	442	46%
3. 様々な店舗がそろい買い物などを楽しめること	651	68%
4. 多様なイベントに参加できること	172	18%
5. まちなかでも水や緑を感じられること	554	58%
6. 体を動かし健康づくりができること	406	43%
7. 人との交流を楽しめること	244	26%
8. 市の歴史や観光情報を得られること	133	14%
9. 働く場があること	557	58%
10. その他	76	8%
11. 特になし	24	3%
無回答	20	2%
計	3670	

■満足度・重要度

「観光の推進」は重要度が高い。



3. 上位・関連計画

水源地域振興基本構想（策定中）	●五ヶ山水源公園やグリーンピアながわなど、山間部に点在する観光施設やその周辺の観光資源の周遊性を高めるため、観光振興の方針を作成中
那珂川遊歩道の整備方針	●連続性の確保や周遊ルートの構築
農業振興地域整備計画	●歴史に触れる場の活用や憩いと安らぎの場の確保に取り組む
安徳大塚古墳保存活用計画	●史跡と一体となった景観の保全や土地利用の保全が必要

4. 那珂川市が抱える課題

那珂川市らしさの強化

●ネットワークの強化により、地域資源を有効活用し、周辺の都市との差別化を図るとともに、市民の愛着や誇りを醸成する必要

社会動向と今後求められるまちづくりの方向性

国の動向

1 人口減少・高齢社会への対応

① 地域活性化の推進

- 地方都市における都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成(コンパクト＋ネットワーク)の推進
- 中山間地域等における「小さな拠点」の形成
- 地方への新たな「ひと」の流れをつくるための二地域居住の本格的推進
- 既存住宅の流通促進等による住み替えしやすい環境整備

など

那珂川市における取り組みの方向性

- コンパクトシティの実現に向けた取り組み
- 地域特性を活かしたまちづくり・基盤整備
- 地域の連携・交流の促進

など

② 観光まちづくり

- 観光は、国内の人口減少・少子高齢化が進展する中、国内外からの交流人口の拡大によって地域の活力を維持するために、極めて重要な分野
- 訪日外国人旅行者数は2018年(平成30年)には3,119万人であり、対前年比8.7%増、6年連続過去最高を更新

- 良好な景観の形成
- 自然・歴史や文化を活かした地域づくり

など

③ 官民連携の推進

- 人口減少・少子高齢化や厳しい財政状況において、これまで行政が担ってきた役割のすべてを今後も行政が担い続けることは難しい
- 公園や道路空間、河川空間などの法制度改正により、公共空間を活用した地域のにぎわいや交流の場の創出による魅力向上や、道路協力団体や河川協力団体を活用した施設の管理など、官民連携の機運向上

- 行政だけでなく、企業、NPO、地域団体・個人といった民間それぞれの役割分担

2 安全・安心社会の構築

- 東日本大震災等の未曾有の大災害、豪雨や台風等、多くの自然災害が発生
- 特に近年は雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、安全・安心が脅かされている

- 防災・減災対策を強化し、命と暮らしを守る必要

3 持続可能な社会の実現

- 2020年度以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとして採択された「パリ協定」を踏まえ、平成28年5月に国は「地球温暖化対策計画」を閣議決定
- 国土交通省としては、住宅・建築物の省エネ化や自動車単体対策、低炭素まちづくりの推進等、多様な政策展開に取り組む

地球温暖化対策

- 公共交通機関の利用促進(駅のバリアフリー化の推進や情報化の推進による利便性向上)
 - 住宅・建築物の省エネ性能向上
 - 緑化の推進(都市公園の整備や道路、公共施設や民有地における緑化) など
- 循環型社会の形成
- 建設リサイクルや下水汚泥のリサイクル、木材利用の推進など